

「ベバシズマブ投与入院患者におけるタンパク尿発症時期および
頻度と降圧薬による発症抑制作用に影響する要因解析」
実施に関するお知らせ

国立病院機構本部総合研究センター診療情報分析部では、患者の皆様に提供する医療の質の向上を目的として、国立病院機構臨床研究中央倫理審査委員会の承認のもと、国立病院機構に属する各病院の電子カルテ等診療情報を活用した分析研究を実施することとなりました。本研究の内容は以下の通りになります。

1. 研究の目的

抗癌剤であるベバシズマブによる副作用として、タンパク尿が知られています。この副作用の発症頻度および頻度は明確にはなっていません。ベバシズマブによるタンパク尿にはある種の降圧薬が有用だとする報告もありますが、ベバシズマブのタンパク尿発症予防および治療に対する最適な降圧薬の選択についての知見は未だ乏しく、日本国内の入院患者における様々な癌腫における使用実態や使用されている降圧薬の種類とその有効性も未知です。以上より、本研究では、ベバシズマブ投与入院患者におけるタンパク尿発症率および発症の時期を明らかにし、降圧薬の予防投与の有効性を薬剤間で比較することを目的としています。

2. 研究の概要

本研究の対象となるのは、2016年1月～2019年6月に、ベバシズマブが投与された入院患者です。診療情報は、医療行為やケアの内容、電子カルテにおける臨床検査値、診療報酬明細書のデータ、および「DPC導入の影響評価に関する調査」に提出しているデータを二次利用させていただくこととなります。本研究は、日常診療から集積された既存の診療情報を利用するものであり、新たに患者の皆様は何らかの負担が生じることはございませんので、ご安心ください。

3. 個人情報の保護について

本研究で利用させて頂く個人情報は、患者の皆様が個人が直接特定できない匿名化情報として加工し厳重に管理・保護いたします。プライバシーに係わる個人情報が外部に漏洩する事は一切ございません。なお、本研究の成果に関しては、患者・国民の皆様や外部組織への公表、医薬学的な学会での発表や専門的な雑誌での報告を行うことがあります。集団を記述した数値データとし、患者の皆様が同定されるデータを公表することは一切ございません。

本研究の趣旨をご理解の上、ご協力いただきますようお願い申し上げます。ご自身の情報が本研究に利用されることにご了承いただけない場合、研究計画諸及び研究に方法に関する資料の閲覧をご希望される場合、本研究で利用する個人情報の開示等を希望される場合、または本研究についてご質問がある場合は、下記窓口までご連絡ください。それらの場合においても、皆様の病院サービスご利用について不利益が生じることは全くございません。

【問い合わせ窓口】 国立病院機構本部 総合研究センター診療情報分析部 山名 隼人

〒152-8621 東京都目黒区東が丘 2-5-21 TEL:03-5712-5133